

書 評

『交通事故における素因減額問題 第2版』

小賀野晶一、栗宇一樹、古笛恵子 編



不法行為訴訟における素因減額は、当事者間の公平な損害の分担という見地から、被害者側の事情(素因・要因)を斟酌して、損害賠償額を判断

する(減額する)というものである。事故の被害者が事故前に有している体質的素因や心因的要因が、損害の発生や損害の拡大に影響を及ぼした場

合には、因果関係や損害の点で問題となる。このような素因減額は、交通事故の領域に限られず、不法行為全般にわたる問題ではあるが、わが国においては交通事故の領域で特に議論や判例の集積が見られている。もっとも、被害者側の素因や要因が、損害にどのような影響を与えているのかを、科学的かつ数値的に判断した上で、どれだけの減額が絶対的に正しいと

いうことを導く方程式は存在しない。事案ごとに状況は異なるため、これまでの裁判例の集積によつて、方向性が示され

ては、第1章から第3章までは素因減額に関する重要な裁判例を取り上げ、実務の視点からの解説が加えられている。第5章では素因減額の判断基準を解説しており、裁判官や弁護士による基準に加え、賠償医学の観点からの渡辺方式や若杉方式などが紹介されている。

第2編は、実務編と題して、第1章から第3章までは素因減額に関する重要な裁判例を取り上げ、実務の視点からの解説が加えられている。第5章では素因減額の判断基準を解説しており、裁判官や弁護士による基準に加え、賠償医学の観点からの渡辺方式や若杉方式などが紹介されている。

第4章は因果関係否定の検討であり、事故と傷害・後遺障害との因果関係を否定した事例、相当因果関係のある治療期間を制限した事例、そして死亡事案に検討を加えている。なお、死亡事案については、因果関係肯定例にも触れており、他の章と同様に裁判例についての詳細な一覧表が付けられている。

実務家必携の書がアツプデート

第3編は裁判例編であり、第1章の体質的素因減額における素因と素因減額の方法について解部、上下肢そしてその他

内容、後遺症の内容、等級認定、素因減額率、素因の内容を整理して裁判所の判断が一覧表化されており、比較検討の資料として優れたものである。

第2章の心因的要因については、心因の意義、素因減額の対象となる心因的要因、斟酌される事情、心因的要因に関する裁判例そして死亡事案に分けて解説しているが、各項目はさらに詳細に分けられた上で検討が進められている。裁判例については、体質的素因と同様に一覧表化されている。

第3編は裁判例編であり、第1章の体質的素因減額における素因と素因減額の方法について解部、上下肢そしてその他

内容、後遺症の内容、等級認定、素因減額率、素因の内容を整理して裁判所の判断が一覧表化されており、比較検討の資料として優れたものである。

第2章の心因的要因については、心因の意義、素因減額の対象となる心因的要因、斟酌される事情、心因的要因に関する裁判例そして死亡事案に分けて解説しているが、各項目はさらに詳細に分けられた上で検討が進められている。裁判例については、体質的素因と同様に一覧表化されている。

第4章は因果関係否定の検討であり、事故と傷害・後遺障害との因果関係を否定した事例、相当因果関係のある治療期間を制限した事例、そして死亡事案に検討を加えている。なお、死亡事案については、因果関係肯定例にも触れており、他の章と同様に裁判例についての詳細な一覧表が付けられている。

年(平成26年)に出版された本書は、交通事故訴訟を取り扱う実務家にとって必携の書であったが、今回の改訂によつて収録する判例もアップデートされており、その価値がさらに高まったといえる。

(B5判/476頁、保険毎日新聞社刊、2020年8月発行、本体価格4800円+税)

【評者】

福田 弥夫 (日本大学危機管理学部長・教授)